

仮想化ソリューション

vSAN

設定事例

ネットワークカード [型式: SC21]

目次

■はじめに	- 2 -
■免責事項	- 2 -
■構成情報	- 3 -
▼構成図	- 3 -
▼製品・ソフトウェアバージョン	- 3 -
▼シャットダウン要件・起動要件	- 4 -
■動作シーケンス	- 5 -
▼停電時の動作シーケンス	- 5 -
▼復電時の動作シーケンス	- 6 -
■UPS シャットダウン・スクリプト設定方法	- 7 -
▼SC21 へのアクセスについて	- 7 -
▼シャットダウン設定	- 8 -
▼スクリプトシャットダウン設定	- 9 -
■参考情報	- 14 -
▼サーバの起動	- 14 -
▼仮想マシンの全台停止・全台起動	- 14 -

■はじめに

本書は、VMware の vSAN を構築している環境で、ネットワークカード[型式:SC21]の『スクリプトシャットダウン機能』を使用した シャットダウン設定および復電時の自動起動設定について記載したものです。シャットダウンや復電時の自動起動のタイミングは、スクリプト送信機能で設定できるタイマーにより時間差で動作します。

なお、本書内に記載されている構成および設定値はサンプルになります。

■免責事項

本書を利用される前に以下の注意点をお読みいただき、ご承諾いただいた上でご利用ください。

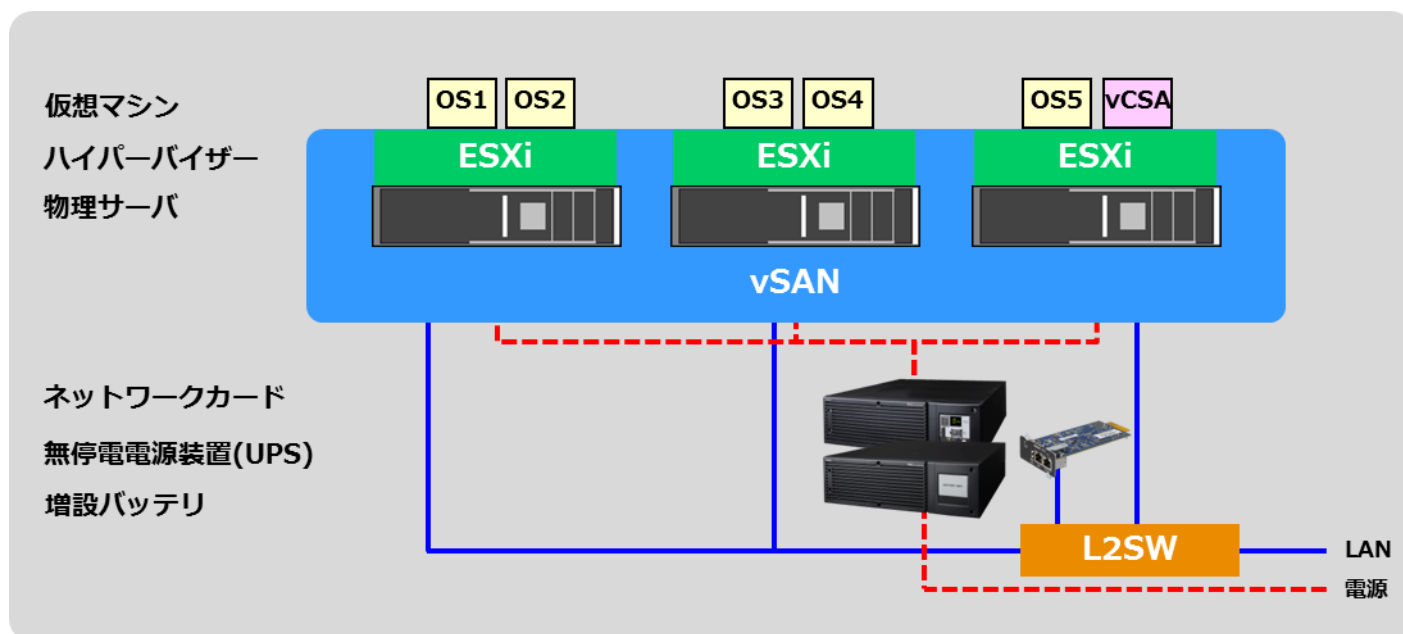
- ・本書の著作権はオムロン ソーシャルソリューションズ株式会社(以下当社)に帰属します。本書の記載内容全て、またはその一部を複製や再配布することは禁じられています。
- ・本書の利用条件や記載内容は予告なしに変更することがあります。
- ・本書は、当社が把握・確認した内容を基に作成したものであり、お客様環境における製品機能の仕様や動作について担保・保証するものではありません。
- ・本書の記載内容は、本書発行時点の情報であり、製品のバージョンアップ等による機能拡張によって実際の操作手順や画面構成、機能動作等が変更される場合があります。
- ・本書は利用者の自己責任のもとに利用されるものとします。本書の利用によりトラブルが発生した場合、利用者又は第三者に損害が生じた場合であっても、当社は損害賠償その他一切の責任を負いません。

■構成情報

本構成の全体図と、使用している製品・ソフトウェアバージョン、シャットダウンおよび起動の要件について記載します。

▼構成図

本構成は、物理サーバ3台をUPS1台に接続する構成となります。



▼製品・ソフトウェアバージョン

本構成で使用している製品・ソフトウェアバージョンについて記載します。

《物理サーバ》

台数 : 3

《ハイパーバイザ》

バージョン情報 : VMware ESXi 6.7.0 Update 2 build 13006603

《仮想マシン》

OS1 : Windows Server 2016 Standard

OS2 : Windows Server 2016 Standard

OS3 : Red Hat Enterprise Linux 7.5

OS4 : Red Hat Enterprise Linux 7.5

OS5 : Red Hat Enterprise Linux 7.5

vCSA : VMware vCenter Server Appliance 6.7.0.30000

《UPS》

型式 : ※

台数 : 1

《NW カード》

型式 : SC21

ファームウェア : Ver. 1.01

台数 : 1

※ UPS 型式については敢えて記載をしておりません。

お客様環境によって、必要な消費電力およびバックアップ時間が異なりますので、お客様毎に必要な UPS をご選定ください。

本構成の目的は、ネットワークカード[型式:SC21]の『スクリプトシャットダウン機能』で、上記サーバ構成を安全にシャットダウンおよび復電時に自動起動するという構成になりますので、ネットワークカード[型式:SC21]を挿すことができる UPS であればシャットダウンおよび自動起動は可能です。

▼シャットダウン要件・起動要件

本書におけるシャットダウン要件・起動要件を以下と仮定します。以降は、本要件に基づいた動作、設定を記載します。

【シャットダウン要件】

- ・最初に、Windows Server 2 台(OS1,OS2)をシャットダウンします。
- ・次に、vCSA 以外の仮想マシン(OS3,OS4,OS5)をシャットダウンします。
- ・次に、vCSA をシャットダウンします。
- ・次に、ESXi をメンテナンスモードに切り替えます。
- ・最後に、ESXi をシャットダウンします。

【起動要件】

- ・最初に、ESXi を起動します。
- ・次に、ESXi のメンテナンスモードを終了します。
- ・次に、vCSA を起動します。
- ・次に、Windows Server 以外の仮想マシン(OS3,OS4,OS5)を起動します。
- ・最後に、Windows Server 2 台(OS1,OS2)を起動します。

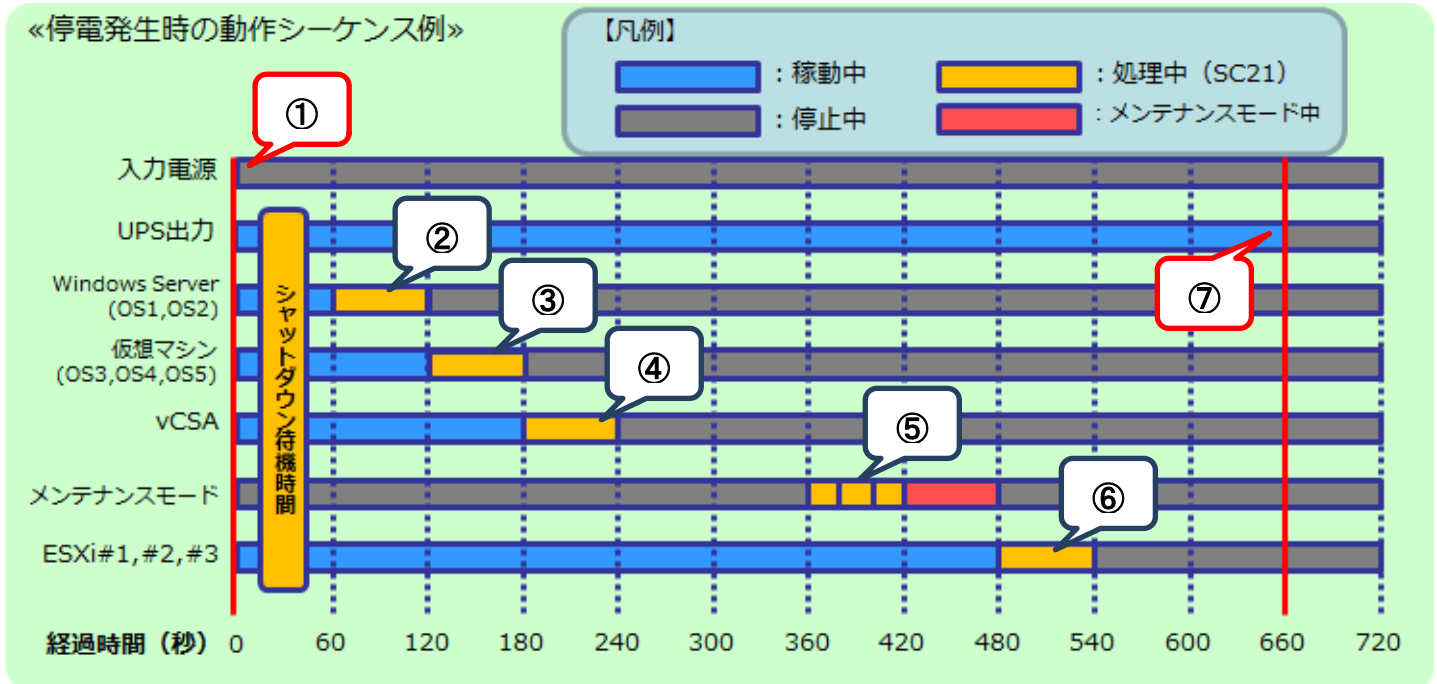
■動作シーケンス

停電、復電時の動作シーケンスについて記載します。なお、本項の処理時間および待機時間の値はサンプルになります。

▼停電時の動作シーケンス

停電が発生すると SC21 が停電を検知し、SC21 のスクリプト送信機能により、Windows Server→vCSA 以外の仮想マシン→vCSA→メンテナンスモードへの切り替え→ESXi (物理サーバ) の順番で構成をシャットダウンします。

以下は停電時の動作シーケンスの例になります。(入力電源の停電発生による構成全体のシャットダウン)



「動作シーケンス例の説明」

- ①. 【停電検知】 : SC21 が停電を検知し、UPS のシャットダウン待機時間(この時間内に復電するとシャットダウンしない)の間待機します。
- ②. 【停電検知から 60 秒後】 : 停電状態が UPS のシャットダウン待機時間を超過し、シャットダウンシーケンスを開始します。スクリプト送信機能により、Windows Server (OS1, OS2) をシャットダウンします。
- ③. 【停電検知から 120 秒後】 : スクリプト送信機能により、vCSA 以外の仮想マシン(OS3, OS4, OS5) をシャットダウンします。
- ④. 【停電検知から 180 秒後】 : スクリプト送信機能により、vCSA をシャットダウンします。
- ⑤. 【停電検知から 360 秒後】 : スクリプト送信機能により、ESXi をメンテナンスモードに切り替えます。
メンテナンスモード切り替えのコマンドは複数の ESXi で同時に実行できないため、時間差をつけて実行します。
- ⑥. 【停電検知から 480 秒後】 : スクリプト送信機能により、ESXi をシャットダウンします。
- ⑦. 【停電検知から 660 秒後】 : UPS が停止します。

※赤文字の秒数はサンプルになりますので、お客様環境に合わせて変更ください。

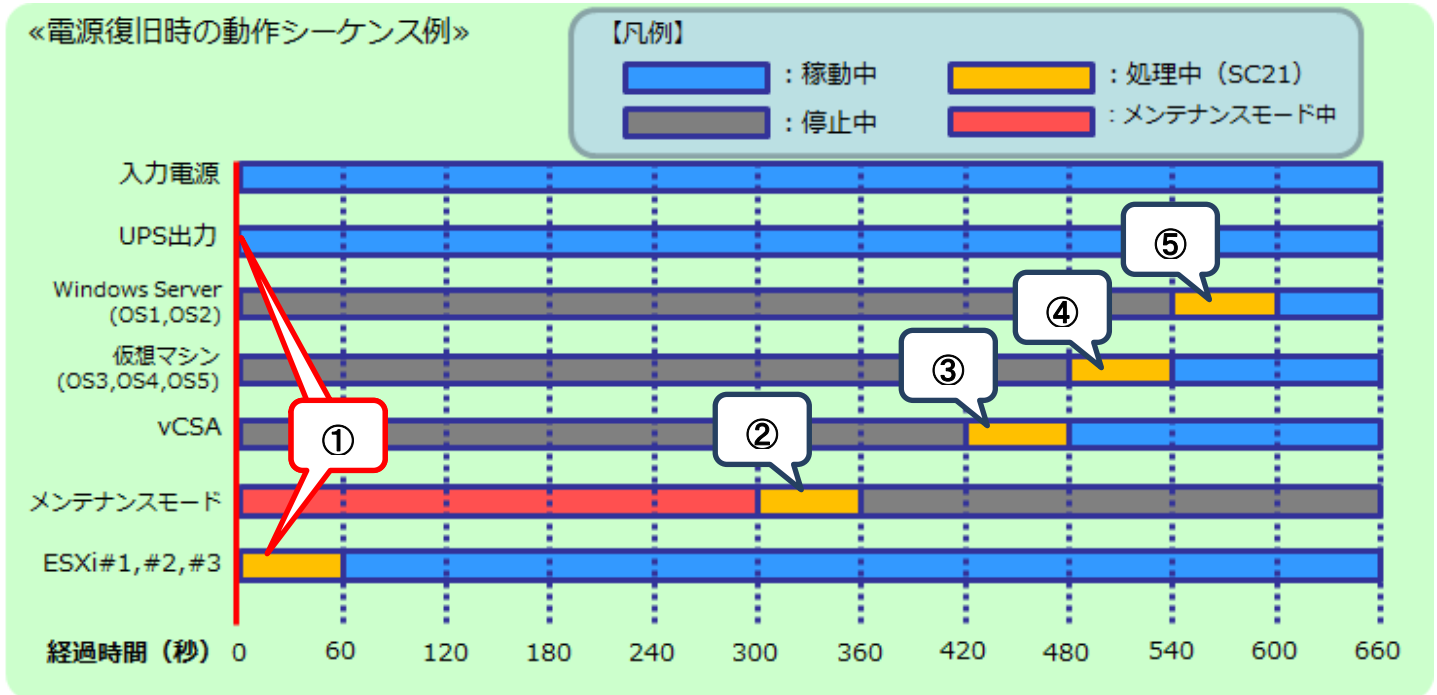
実際の構築時に、シャットダウン時間を計測していただいた上で設定ください。

▼復電時の動作シーケンス

電源が復電すると、SC21 のスクリプト送信機能により、ESXi(物理サーバ)→メンテナンスモードの終了→vCSA→Windows Server 以外の仮想マシン→Windows Server の順番で構成を起動します。

メンテナンスモードの終了処理は ESXi が起動していることが前提となるため、ESXi が起動するまでの時間を見込んでメンテナンスモード終了スクリプトの待機時間を設定します。同様に、仮想マシンの起動はメンテナンスモード終了後が前提となるため、メンテナンスモードの終了を見込んで仮想マシン起動スクリプトの待機時間を設定します。

以下は復電時の動作シーケンスの例になります。(入力電源の復旧により構成を起動)



「動作シーケンス例の説明」

- ①. 【復電検知】 : SC21 が復電を検知し、UPS が出力を開始します。
復電時に実行するスクリプトにより、ESXi を起動します。
- ②. 【復電から 300 秒後】 : 復電時に実行するスクリプトにより、ESXi のメンテナンスモードが終了します。
- ③. 【復電から 420 秒後】 : 復電時に実行するスクリプトにより、vCSA が起動します。
- ④. 【復電から 480 秒後】 : 復電時に実行するスクリプトにより、Windows Server 以外の仮想マシン(OS3,OS4,OS5)が起動します。
- ⑤. 【復電から 540 秒後】 : 復電時に実行するスクリプトにより、Windows Server (OS1,OS2)が起動します。

※赤文字の秒数はサンプルになりますので、お客様環境に合わせて変更ください。

実際の構築時に、シャットダウン時間を計測していただいた上で設定ください。

■UPS シャットダウン・スクリプト設定方法

本構成のシャットダウンおよび起動には、SC21 から【シャットダウン設定】と【スクリプトシャットダウン】を設定します。
【シャットダウン設定】では、入力電源異常が発生したときの UPS の動作や UPS が停止するまでの時間を設定します。
【スクリプトシャットダウン】では、仮想マシンや ESXi ホストなどをシャットダウンするスクリプトを設定します。
また、復電時に仮想マシンや ESXi ホストを起動するスクリプトも【スクリプトシャットダウン】画面で設定します。

なお、本項に記載されている設定値はサンプルになりますので、お客様環境に合わせて変更ください。

▼SC21 へのアクセスについて

SC21 はブラウザからアクセス可能です。アクセス方法の詳細はユーザーズマニュアルの【1-2 モニタ画面にログインする】(p.4)を参照してください。

《ユーザーズマニュアル》

https://socialsolution.omron.com/jp/ja/products_service/ups/support/download/ups/sc21/SC21_Users_Manual_Jp_D.pdf

《推奨 Web ブラウザ》

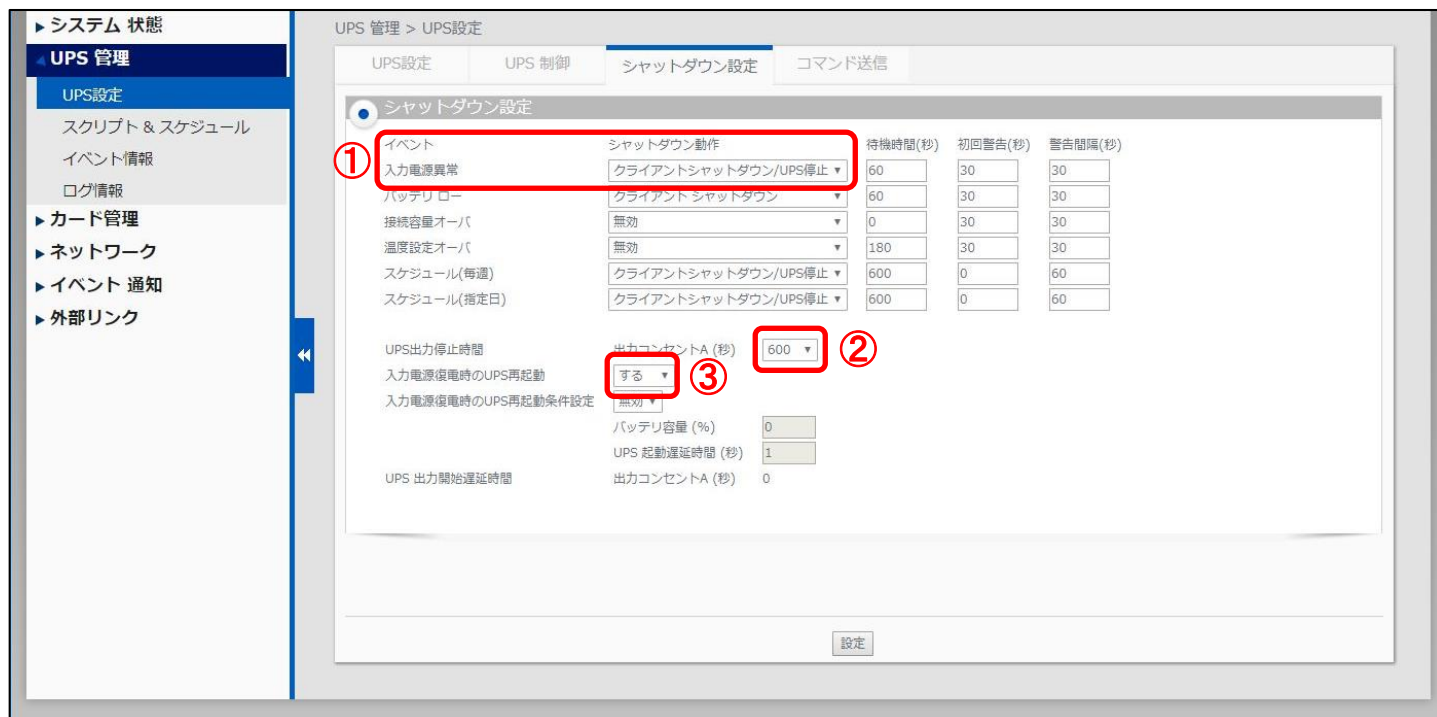
OS	ブラウザ	バージョン
Windows	Internet Explorer	11
MacOS	Safari	11 以上
Linux	Firefox ESR	52 以上

▼シャットダウン設定

左メニューの【UPS 管理 > UPS 設定】を開き、【シャットダウン設定】タブをクリックします。

①②③の設定完了後、画面下部の【設定】ボタンを押下します。

《設定画面》



《設定項目説明》

- ① 入力電源異常が発生したときのUPSの動作を選択します。
- ② UPSが停止するまでの時間を選択します。本構成が全てシャットダウンするまでに要する時間を考慮して設定する必要があります。下限は【0秒】、上限は【1800秒】です。
- ③ UPSが停電による停止後、復電時に自動起動【する】、または【しない】を選択します。

《設定値》

以下は、本構成のシャットダウンに使用する【シャットダウン設定】の設定例になります。

イベント	シャットダウン動作
入力電源異常	クライアントシャットダウン/UPS停止

UPS出力停止時間	
出力コンセントA(秒)	600

入力電源復電時のUPS再起動	
する	

▼スクリプトシャットダウン設定

左メニューの【UPS 管理 > スクリプト&スケジュール】を開き、【スクリプトシャットダウン】タブをクリックします。

①②③設定完了後、画面を右へスクロールします。

《設定画面》

UPS 管理 > スクリプトとスケジュール

スクリプト シャットダウン スケジュール (停止/起動) スケジュール (バッテリーテスト)

● スクリプト シャットダウン

テスト No.	IP アドレス	出力コンセント	選択プロトコル	条件	ログインID 1	パスワード 1	ログインID 2	パスワード 2	再
1	192.168.1.101	出力コンセントA	SSH	シャットダウン	root	password10mr			
2	192.168.1.102	出力コンセントA	SSH	シャットダウン	root			
3	192.168.1.103	出力コンセントA	SSH	シャットダウン	root			
4	192.168.1.101	出力コンセントA	SSH	シャットダウン	root			
5	192.168.1.102	出力コンセントA	SSH	シャットダウン	root			
6	192.168.1.103	出力コンセントA	SSH	シャットダウン	root			
7	192.168.1.101	出力コンセントA	SSH	シャットダウン	root			
8	192.168.1.102	出力コンセントA	SSH	シャットダウン	root			
9	192.168.1.103	出力コンセントA	SSH	シャットダウン	root			
10	192.168.1.101	出力コンセントA	SSH	シャットダウン	root			
11	192.168.1.102	出力コンセントA	SSH	シャットダウン	root			
12	192.168.1.103	出力コンセントA	SSH	シャットダウン	root			
13	192.168.1.101	出力コンセントA	SSH	シャットダウン	root			
14	192.168.1.102	出力コンセントA	SSH	シャットダウン	root			
15	192.168.1.103	出力コンセントA	SSH	シャットダウン	root			
16	192.168.1.45	出力コンセントA	SSH	入力電源復帰	root			
17	192.168.1.46	出力コンセントA	SSH	入力電源復帰	root			

設定 テスト

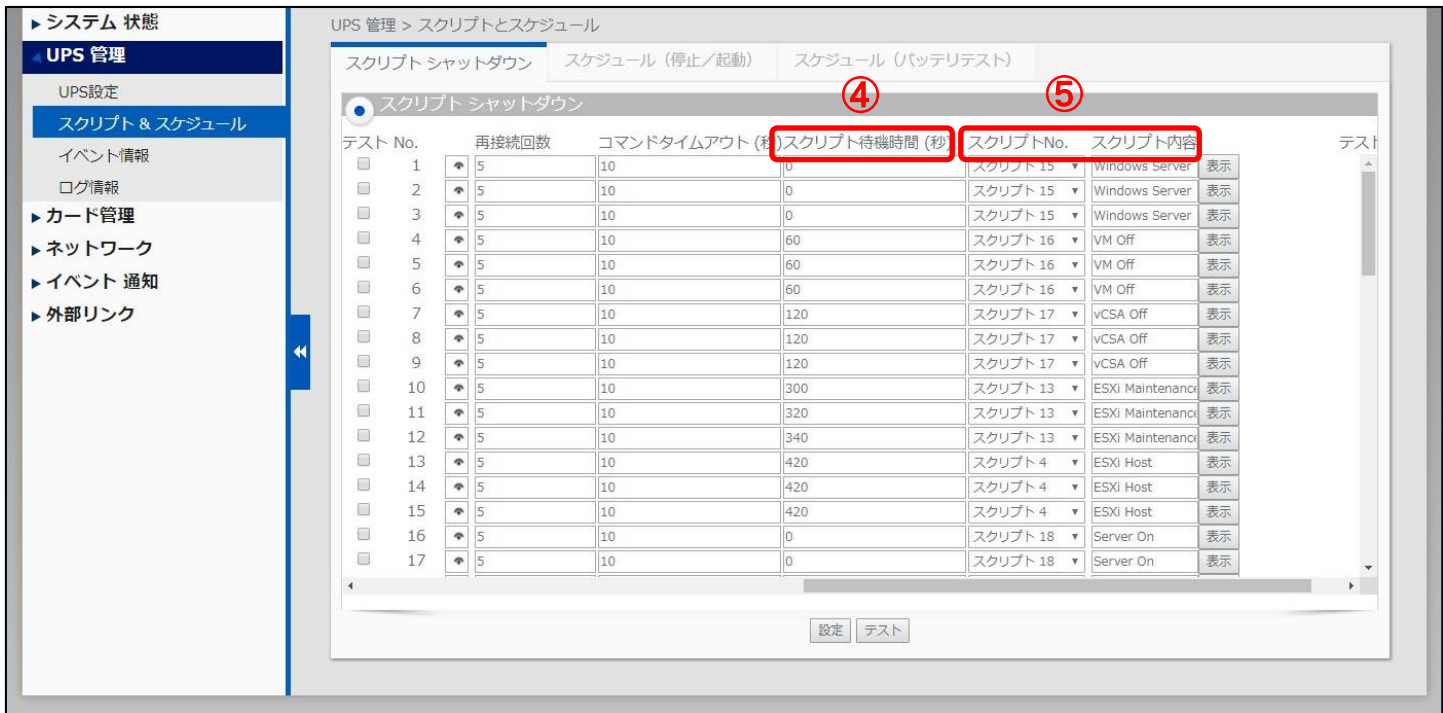
右へスクロール

《設定項目説明》

- ① スクリプト実行対象機器への接続情報(IP アドレス、ログインユーザ ID、パスワード)を設定します。
- ② スクリプト実行対象機器への接続プロトコルを選択します。選択可能なプロトコルは【Telnet】と【SSH】となります。
- ③ スクリプトを実行する条件を選択します。停電時にスクリプトを実行させたい場合は、【シャットダウン】を選択します。復電時にスクリプトを実行させたい場合は【入力電源復帰】を選択します。

④⑤の設定完了後、画面下部の【設定】ボタンを押下します。

《設定画面》



《設定項目説明》

- ④ スクリプトが実行されるまでの待機時間を設定します。ただし、前項の【シャットダウン設定】で設定した【UPS 出力停止時間】を超える値は設定できません。そのため、設定値の下限と上限は以下となります。
- ・下限 : 0 秒
 - ・上限 : 【UPS 出力停止時間】で設定した値 ※【UPS 出力停止時間】は【1800 秒】まで設定可能です。
- ⑤ スクリプト実行対象機器で実行するスクリプトを設定します。プリセットのスクリプトを使用するか、新規にスクリプトを作成してください。

※No.順にスクリプトは発行されません。発行のタイミングは④のスクリプト待機時間(秒)の設定に依存します。

《設定値》

以下は、本構成のシャットダウンに使用する【スクリプトシャットダウン】の設定例になります。
スクリプトの内容については、後述の「スクリプト内容一覧」を参照してください。

No.	宛先(IP アドレス)	プロトコル	条件	...	スクリプト 待機時間	スクリプト No	スクリプト名称
1	ESXi #1	SSH	シャットダウン		0	スクリプト 15	Windows Server Off
2	ESXi #2	SSH	シャットダウン		0	スクリプト 15	Windows Server Off
3	ESXi #3	SSH	シャットダウン		0	スクリプト 15	Windows Server Off
4	ESXi #1	SSH	シャットダウン		60	スクリプト 16	VM Off
5	ESXi #2	SSH	シャットダウン		60	スクリプト 16	VM Off
6	ESXi #3	SSH	シャットダウン		60	スクリプト 16	VM Off
7	ESXi #1	SSH	シャットダウン		120	スクリプト 17	vCSA Off
8	ESXi #2	SSH	シャットダウン		120	スクリプト 17	vCSA Off
9	ESXi #3	SSH	シャットダウン		120	スクリプト 17	vCSA Off
10	ESXi #1	SSH	シャットダウン		300	スクリプト 13	ESXi Maintenance Mode ON
11	ESXi #2	SSH	シャットダウン		320	スクリプト 13	ESXi Maintenance Mode ON
12	ESXi #3	SSH	シャットダウン		340	スクリプト 13	ESXi Maintenance Mode ON
13	ESXi #1	SSH	シャットダウン		420	スクリプト 4	ESXi Host
14	ESXi #2	SSH	シャットダウン		420	スクリプト 4	ESXi Host
15	ESXi #3	SSH	シャットダウン		420	スクリプト 4	ESXi Host
16	サーバリモートコンソール	SSH	入力電源復電		0	スクリプト 18	Server On ※1
17	サーバリモートコンソール	SSH	入力電源復電		0	スクリプト 18	Server On ※1
18	サーバリモートコンソール	SSH	入力電源復電		0	スクリプト 18	Server On ※1
19	ESXi #1	SSH	入力電源復電		300	スクリプト 14	ESXi Maintenance Mode OFF
20	ESXi #2	SSH	入力電源復電		300	スクリプト 14	ESXi Maintenance Mode OFF
21	ESXi #3	SSH	入力電源復電		300	スクリプト 14	ESXi Maintenance Mode OFF
22	ESXi #1	SSH	入力電源復電		420	スクリプト 19	vCSA On
23	ESXi #2	SSH	入力電源復電		420	スクリプト 19	vCSA On
24	ESXi #3	SSH	入力電源復電		420	スクリプト 19	vCSA On
25	ESXi #1	SSH	入力電源復電		480	スクリプト 20	VM On
26	ESXi #2	SSH	入力電源復電		480	スクリプト 20	VM On
27	ESXi #3	SSH	入力電源復電		480	スクリプト 20	VM On
28	ESXi #1	SSH	入力電源復電		540	スクリプト 21	Windows Server On
29	ESXi #2	SSH	入力電源復電		540	スクリプト 21	Windows Server On
30	ESXi #3	SSH	入力電源復電		540	スクリプト 21	Windows Server On

※1 サーバメーカーによって使用するスクリプトが異なります。後項【参考情報】の【▼サーバの起動】(p.15)をご参照ください。

《スクリプト内容一覧》

以下は、停電時のシャットダウンに使用するスクリプト内容の設定例になります。(条件にシャットダウンを選択時)
 なお、スクリプト内容の赤字部分は仮想マシン名になります。サンプルとして記載していますので、お客様環境に合わせて変更ください。

スクリプト No.	シャットダウン対象	プリセット or 新規作成	スクリプト名称	スクリプト内容
15	Windows Server 2 台	新規作成	Windows Server Off	rcv=login: snd=\$u1 rcv=Password snd=\$p1 rcv=] snd=VM="Windows Server 2016-01";vim-cmd vmsvc/getallvms grep "\$VM" vim-cmd vmsvc/power.shutdown `awk '{print \$1}` rcv=] snd=VM="Windows Server 2016-02";vim-cmd vmsvc/getallvms grep "\$VM" vim-cmd vmsvc/power.shutdown `awk '{print \$1}`
16	Windows Server と vCSA 以外の仮想マシン	新規作成	VM Off	rcv=login: snd=\$u1 rcv=Password snd=\$p1 rcv=] snd=for i in `vim-cmd vmsvc/getallvms grep -e ".vmx" grep -v vCSA awk '{print \$1}`;do vim-cmd vmsvc/power.shutdown \$i;done
17	vCSA	新規作成	vCSA Off	rcv=login: snd=\$u1 rcv=Password snd=\$p1 rcv=] snd=VM="vCSA";vim-cmd vmsvc/getallvms grep "\$VM" vim-cmd vmsvc/power.shutdown `awk '{print \$1}`
13	ESXi をメンテナンスモードに切り替え	プリセット	ESXi Maintenance Mode ON	rcv=login: snd=\$u1 rcv=Password snd=\$p1 rcv=] snd=esxcli system maintenanceMode set -e true -m noAction
4	ESXi ホスト	プリセット	ESXi Host	rcv=login: snd=\$u1 rcv=Password: snd=\$p1 rcv=] snd=halt

以下は、復電時の起動に使用するスクリプト内容の設定例になります。(条件に入力電源復電を選択時)
 なお、スクリプト内容の赤字部分は仮想マシン名になります。サンプルとして記載していますので、お客様環境に合わせて変更ください。

スクリプト No.	起動対象	プリセット or 新規作成	スクリプト名称	スクリプト内容
18	ESXi ホスト	新規作成	Server On	※1
14	ESXi のメンテナンスモードを終了	プリセット	ESXi Maintenance Mode OFF	rcv=login: snd=\$u1 rcv=Password snd=\$p1 rcv=] snd=esxcli system maintenanceMode set -e false
19	vCSA	新規作成	vCSA On	rcv=login: snd=\$u1 rcv=Password snd=\$p1 rcv=] snd=VM="vCSA";vim-cmd vmsvc/getallvms grep "\$VM" vim-cmd vmsvc/power.on `awk '{print \$1}'`
20	Windows Server と vCSA 以外の仮想マシン	新規作成	VM On	rcv=login: snd=\$u1 rcv=Password snd=\$p1 rcv=] snd=for i in `vim-cmd vmsvc/getallvms grep -e ".vmx" grep -v "Windows Server 2016-01" grep -v "Windows Server 2016-02" awk '{print \$1}'`;do vim-cmd vmsvc/power.on \$i;done
21	Windows Server	新規作成	Windows Server On	rcv=login: snd=\$u1 rcv=Password snd=\$p1 rcv=] snd=VM="Windows Server 2016-01";vim-cmd vmsvc/getallvms grep "\$VM" vim-cmd vmsvc/power.on `awk '{print \$1}'` rcv=] snd=VM="Windows Server 2016-02";vim-cmd vmsvc/getallvms grep "\$VM" vim-cmd vmsvc/power.on `awk '{print \$1}'`

※1 サーバメーカーによって使用するスクリプトが異なります。後項【参考情報】の【▼サーバの起動】(p.14)をご参照ください。

■ 参考情報

サーバの起動スクリプト、仮想マシンの全台停止・起動スクリプトのサンプルを記載します。

▼サーバの起動

各サーバの検証時に使用した停止スクリプトのサンプルを記載します。

スクリプトは、各サーバのリモートコンソールに対して実行してください。

メーカー	リモート コンソール	バージョン	起動スクリプト
Dell EMC	iDRAC	8	rcv=login: snd=\$u1 rcv=Password: snd=\$p1 rcv=> snd=racadm serveraction powerup
HPE	iLO	5	rcv=login: snd=\$u1 rcv=Password snd=\$p1 rcv=> snd=power on
Lenovo	XCC	2.10	rcv=login: snd=\$u1 rcv=Password snd=\$p1 rcv=> snd=power on

▼仮想マシンの全台停止・全台起動

仮想マシンを全台停止・全台起動するスクリプトのサンプルを記載します。

仮想マシン全台停止	仮想マシン全台起動
rcv=login: snd=\$u1 rcv=Password: snd=\$p1 rcv=] snd=for i in `vim-cmd vmsvc/getallvms grep .vmx awk '{print \$1}'`;do vim-cmd vmsvc/power.shutdown \$i;done	rcv=login: snd=\$u1 rcv=Password: snd=\$p1 rcv=] snd=for i in `vim-cmd vmsvc/getallvms grep .vmx awk '{print \$1}'`;do vim-cmd vmsvc/power.on \$i;done

以上

オムロンソーシャルソリューションズ株式会社

K1M-Z-19198B